

# 障害のある子どもない子ども一緒に楽しめる場づくり

～ユニバーサルな社会を目指して～

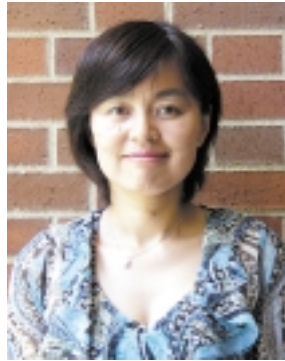


アウトリーチ主宰：豊田朋子さん

地域で障害のある子どもない子ども一緒に楽しめる場づくりに取り組んでいる豊田朋子さん（アウトリーチ主宰）にお話を伺いました。

豊田さんたちは、障害のある子どもない子ども幼い頃から様々な活動をともし、地域で豊かな人間関係をつくりながら、多様な場面で社会参加の機会を得て、地域の一員として自立していけることを目指しています。

この試みは始まったばかりですが、その原動力となっているのは、様々なバックグラウンドを持つ人々が互いを認め合って豊かに暮らせる地域を作りたいという大きな夢です。



豊田朋子さん  
「様々な人たちが交わることができる機会が地域には必要です」

## 障害のある長女が教えてくれたこと…

長女を保育園や学童保育に入れた当初は、実は、「みんなのお荷物になるのではないかと少々不安がありました。でも、大人のそんな心配をよそに、子供たちの長女に対する柔軟なかかわりに驚かされました。園の先生や学童の指導員の方たちも、いつもは乱暴な子が長女と接していると落ち着きを取り戻すとおっしゃっていました。そんな長女の様子に「障害のある子たちは、もっともっと社会に出て行くべきではないのか」と思い始めました。また、はみ出さないようにと平均的に生きていくことを身につけていく障害のない子供たちも、障害のある子と一緒にいることで、確実に引き出される大切な何かがあると確信しました。

今の日本では、障害のある人に触れたこともないという人が珍しくありません。私自身、障害のある人とかかわりを持つのは、まさに自分の子供が初めてでした。これまで障害のある人の多くは、自宅から遠く離れた養護学校にバスで通い、卒業すれば福祉作業所で働くか、遠く離れた施設で暮らすなど、地域から隔離された人生を送ってきています。こうした状況を少しでも変えたいと考えました。

## 様々なバックグラウンドを認め合う地域づくりを…

しかし、それには、行政を頼みにして法律を整備したりするだけでは、いつまでたっても実現しない、市民の力を中心にして、障害の有無、年齢や国籍の違いなど、多様なバックグラウンドを認め合うユニバーサルな地域づくりをしていくことが最も大切だと、長女の子育てを通して実感しました。そのための第一歩として、まず私たちが身近にできることは、心が柔軟な小さな頃から、障害の有無や国籍を超えて、いろいろな子供たちが一緒になって楽しめる機会を地域に少しでも多く作っていくことだと考えました。

そこで、私はやはりお子さんに障害があるお母さんやご自身に障害がある女性たちで当事者のグループ「アウトリーチ」(<http://outreach.blog50.fc2.com/>)を2年前に結成。

当事者の視点での福祉・子育て情報の発信や、子供向けのユニバーサルな余暇イベントの企画に取り組み始めたのです。

その一環として、昨年は、「ユニバーサル・スポーツ・トライアル」と「ユニバーサル・デイキャンプ」を実施しました。また、この8月には、世田谷区の助成を受けて、下北沢の北沢タウンホールで「ユニバーサル・キッズ・フェスタinせたがや2008」を予定しています。（※このインタビューを行ったのは7月初旬です）アフリカの音楽やオペラをライブで楽しんだり、竹とんぼ作りや演劇ワークショップに挑戦したりと様々なプログラムを準備しています。冒頭のセレモニーでは、子供たちがステージで「ユニバーサル・キッズ宣言」もする予定です。

## 地域の持つパワーに大きな可能性を感じて

このフェスタは、「NPO法人こどもプロジェクト」(<http://kodomo-project.com/>)、「キッズドアプロジェクト」(<http://www.kidsdoor.net/>)などの子育て支援団体を中心に、地域の様々なNPO、団体、企業、個人が協働して開催します。「障害の有無、国籍を超えたユニバーサルなキッズ・フェスタを！」という呼びかけに、子育てや福祉関係に限らず、芸術、環境などジャンルを超えた地域の団体がその主旨に賛同し、各団体の持つスキルやキャリア、人材を持ち寄り、柔軟かつ迅速に支援や協力をしてくれたことには本当に驚き、感謝しています。

これからも、私たち当事者が広く支援を呼びかけ、こうした地域の様々な団体が持つパワーを有効に引き出しながら、行政や企業とも協働していくことが、ユニバーサルな地域づくりをしていく上での鍵であると確信しています。

まだまだ試行錯誤の段階ですが、いずれはこうしたどんな子供も楽しめる機会が、単発のイベントではなく、年間を通じて一環してある「ユニバーサル・キッズ・プロジェクト」として地域に定着していくことを目指しています。長女が成人する頃には、障害のある人たちが生まれ育った地域で、生き生きと働き、生活している姿があちこちに見られる社会になっているように、今できることを一歩ずつすすめていきたいと思っています。

昨年実施した「ユニバーサル・スポーツ・トライアル」、Tバットに挑戦しました。

